

NEWS RELEASE

【報道関係各位】

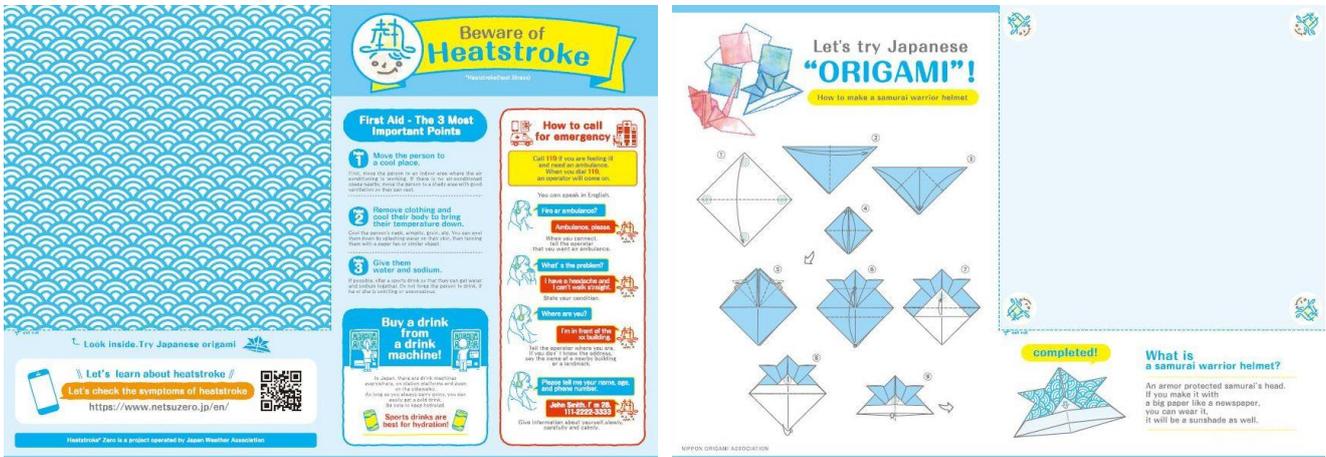
2018年5月8日
「熱中症ゼロへ」プロジェクト

日本気象協会が推進、「熱中症ゼロへ」プロジェクト 2018 年度活動スタート！ 訪日外国人向けの折り紙仕掛け付き新リーフレットを作成、配布 熱中症予防体験として、庭園にて日本の伝統的な和傘の無料貸し出しも

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、会長：石川 裕己、以下「日本気象協会」）が 2013 年から推進している「熱中症ゼロへ」プロジェクト(以下、本プロジェクト)は、近年、増加傾向にある「訪日外国人」を対象とした熱中症予防啓発を注力テーマに、2018年5月8日（火）より本年度の活動を本格スタートします。

2017 年度の訪日外国人旅行者数が過去最高を更新する中、この先3カ月は平年より暑く、夏の訪れが早い可能性があります（※別紙参考の注1）。一方で、本プロジェクトが在留外国人 200 名を対象に行った「日本の暑さ」に関する調査（2016年）では、全体の79%が日本の夏について「過ごしにくい」と答え、75.5%から「日本で熱中症を経験したことがある」との回答がありました（※別紙参考の注2）。

これまで、熱中症の正しい知識と対策を多くの方々に知ってもらう活動を進めてきた本プロジェクトは、本年度、訪日外国人を対象とした熱中症予防啓発を強化する取り組みとして、英語版の折り紙仕掛け付き熱中症予防啓発リーフレットを新たに作成しました。



新たに作成した訪日外国人向けの熱中症予防啓発リーフレット(左:表面、右:裏面)

新リーフレットには、熱中症の応急処置法「涼しい場所に移動する」「体を冷やして体温を下げる」「水分と塩分を補給する」や、緊急時における 119 番通報の方法などを英語で記載。熱中症の症状や予防対策を紹介する「熱中症ゼロへ」web サイト[*] の URL と、QR コードを印刷しました。また、リーフレットの一部を切り取って、折り紙を楽しめる仕掛けを付け、裏面に兜（かぶと）の折り方を紹介。日本文化に親しみながら、熱中症やその対応策について知ることができる内容となっています。



折り紙部分で作った兜(かぶと)

* 「熱中症ゼロへ」Web サイト 英語ページ <https://www.netsuzero.jp/en/>

新リーフレットは協力自治体などと連携し、宮城県仙台市、東京都台東区・新宿区・大田区、京都府京都市、奈良県奈良市、兵庫県神戸市、沖縄県那覇市の観光案内所で6月から、東京都内の庭園3カ所で7月から順次配布する予定です。

【リーフレットの仕様】

- ・ A4判二つ折り、両面カラー
- ・ 縦 21cm × 横 14.8cm [折りたたみ時] (折り紙部分：14.8cm×14.8cm)

【リーフレットの配布予定場所】(2018年5月8日時点)

観光案内施設

- ・ 仙台市観光情報センター (宮城県仙台市青葉区中央 1-1-1 JR 仙台駅 2F びゅうプラザ内)
- ・ 仙台ツーリストインフォメーションデスク (宮城県仙台市青葉区一番町 3-2-17 藤崎本館 1 階)
- ・ 秋保温泉郷観光案内所 (宮城県仙台市太白区秋保町湯元字寺田原 40-7 秋保・里センター内)
- ・ 浅草文化観光センター (東京都台東区雷門二丁目 18 番 9 号)
- ・ 新宿観光案内所 (東京都新宿区新宿三丁目 37 番 2 号)
- ・ 大田区観光情報センター (東京都大田区蒲田 4-50-11 ウィングキッチン京急蒲田中 2 階)
- ・ 京都総合観光案内所 (京都府京都市下京区 烏丸通塩小路下る 京都駅ビル)
- ・ 奈良市総合観光案内所 (奈良県奈良市三条本町 1082)
- ・ 近鉄奈良駅総合観光案内所 (奈良県奈良市東向中町 28 近鉄奈良駅ビル 1F)
- ・ 奈良市観光センター (奈良県奈良市上三条町 23-4)
- ・ 神戸市総合インフォメーションセンター (兵庫県神戸市中央区雲井通 8 丁目 JR 三ノ宮駅東口南側)
- ・ 新神戸駅観光案内所 (兵庫県神戸市中央区加納町 1-3-1 JR 新神戸駅構内、改札前)
- ・ 北野観光案内所 (兵庫県神戸市中央区北野町 3-10-20)
- ・ 那覇市観光案内所 (沖縄県那覇市牧志 3-2-10 てんぶす那覇 1 階)

庭園

- ・ ホテル椿山荘東京 庭園 (東京都文京区関口 2-10-8)
- ・ 文京区立 肥後細川庭園 (東京都文京区目白台 1-1-22)
- ・ 豊島区立 目白庭園 (東京都豊島区目白 3-20-18)

上記のうち東京都内の庭園3カ所では、7、8月に和傘の無料貸し出しも行います。熱中症予防につながる日本ならではの暑さ対策方法として、和傘で直射日光を防ぐ体験をしてもらう取り組みです。



ホテル椿山荘東京 庭園などでは和傘を貸し出し
(※浴衣の貸し出しは行いません)

本プロジェクトでは、このほかにも、さまざまな人々に熱中症の正しい知識と対策を知ってもらう活動を推進していきます。このほかの本年度の主な活動は次の通りです。

【2018年度の主な活動】

- ・ 「熱中症セルフチェック on サイネージ」による熱中症危険度の算出
- ・ 観測を通じたデータに基づく熱中症予防の呼びかけ
(豊島区と連携した公園での観測・実証実験/スポーツ競技場における熱中症危険度の測定)
- ・ 環境省が主催する「熱中症予防強化月間」のイベント運営

■ 「熱中症ゼロへ」プロジェクトとは

熱中症にかかる方を減らし、亡くなってしまう方をゼロにすることを目指して、一般財団法人日本気象協会が推進するプロジェクトです。2013年夏のプロジェクト発足以来、熱中症の発生に大きな影響を与える気象情報の発信を核に、熱中症に関する正しい知識と対策をより多くの方に知ってもらう活動を展開してきました。活動6年目となる2018年は、さらに充実した啓発活動を実践していきます。

別紙参考

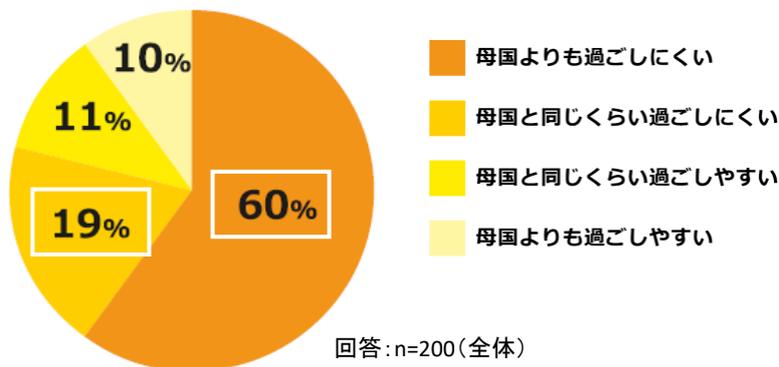
【注1】2018年夏の気象と暑さの傾向

4月25日に発表された3カ月予報によると、5月は全国的に平年より気温の高い日が多い見込みです。6月は、北日本と沖縄・奄美で平年並みか高く、東日本・西日本は平年並みと予想されています。南から湿った空気が流れ込むため、ジメジメと蒸し暑く感じられる日が多くなりそうです。7月は、前半は平年に比べ曇りや雨の日が少なく、後半は平年より晴れる日が多い見込みです。気温は全国的に平年より高め、特に東日本・西日本・沖縄・奄美では真夏の暑さが前倒しでやってくるでしょう。この先3カ月は平年より暑く、夏の訪れが早くなりそうです。熱中症になる危険性も高くなりますので、自分の体力を過信せず対策が必要です。

【注2】外国人出身者に聞いた「日本の暑さ」に関する調査（2016年実施）より

「熱中症ゼロへ」プロジェクトが2016年、日本の夏を経験したことのある在留外国人200名を対象に行った「日本の暑さに関する」調査では、「母国よりも過ごしにくい」または「母国と同じくらい過ごしにくい」と回答した人が全体の79%に上りました。

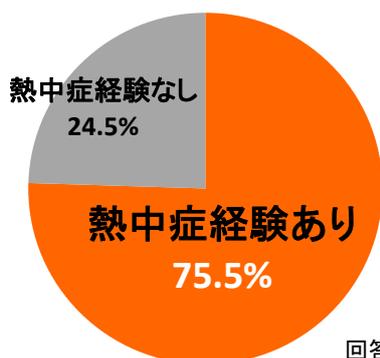
Q.日本の夏の過ごしやすさは、母国の夏と比べてどうですか？



【調査期間】
2016年5月13日～5月22日
【調査方法】
在留外国人パネルを用いたインターネット調査
【調査対象】
在留外国人(日本国内の居住地:全国を対象)
男女20～59歳
対象の出身国で生まれ、3歳までその出身地に
住んでいた人
夏(6月～9月)の間、日本で生活をしたことがある人
以下の4地域でn=50ずつ均等割付で回収。
国別割付はしていない。
熱帯地域:シンガポール、タイ、インドネシア
乾燥地域:エジプト、サウジアラビア
温帯地域:イギリス、フランス、香港、(台湾)
冷帯地域:ロシア、カナダ

また、「日本で熱中症の症状を経験したことがあるか」という質問をしたところ、「熱中症を経験したことがある」という回答が、全体の75.5%を占める結果となりました。

Q.あなたは日本の夏の時期(6～9月)に、次のような熱中症の症状*を経験したことはありますか？



*熱中症の症状に関する質問は、以下のような症状を経験したことがあるかを問いました。

- ・めまいや顔のほてり
- ・筋肉痛や筋肉のけいれん(手足の筋肉がつるなど)
- ・体のだるさや吐き気(体がぐったりして力が入らない。吐き気や嘔吐、頭痛を伴う場合も)
- ・汗のかき方がおかしい(拭いても拭いても汗が出る、もしくは全く汗をかいていないなど)
- ・頻脈(ひんみやく)、下痢
- ・体がガクガクとひきつけを起こしたり、まっすぐ歩けない
- ・体温が高い、皮膚の異常(体温が高くて皮ふを触るととても熱い、皮ふが赤く乾いているなど)
- ・呼びかけに反応しない(声をかけても反応しなかったり、おかしい返答をする)